



総社市長

# 片岡 聡一

昭和34年8月2日生まれ（60歳）。2007年の総社市長選で初当選し、以後3期12年間務める。昨年10月に行われた選挙で無投票再選を果たし、4期目に突入した。

**市長・議長** 明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

**市長** 昨年を振り返ると、10月の市長選挙で再当選できたことが私の中では大きな出来事でした。4期目も、これまで通り総社を変えていく精神を貫いていきます。また、日々新たな挑戦をし続けたいと思います。

**議長** 私は、10月に行われた臨時市議会で議長に就任し、重責を感じています。議会では、3つある常任委員会の委員長が、全員2期目の若手議員になりました。彼らには大いに期待を寄せています。

## 心の復興と災害への備え

**市長** 市としては復興に力を入れた一年でした。7月6日に西日本豪雨から一年を迎え式典を行い、改めて復興を誓いました。高梁川の強靱化や道路の拡幅など、インフラ整備を進めています。しかし、今なお91世帯187人（12月13日現在）が仮設住宅での生活を強いられています。きめ細かい支援を行うため、11月に被災者寄り添い室を立ち上げました。市内の被災者宅を1軒1軒訪問し、それぞれのニーズや悩みを聴いています。大切なのは心の復興です。被災者の心の声を聴き、寄り添うことに努めています。

これからも走り続ける。常に新しいことに挑戦し、職員と市民が顔の見える関係をつくりたい。

**議長** 議会も被災者の支援に力を入れてきました。が、さらに進めていかなくてはならないと考えています。災害は、日本全国いつどこで起きるか予測が付きません。将来起こりうる災害に向けての備えも必要だと思えます。

**市長** 災害死者を出さないという固い決意のもと、今後も訓練を行っていきます。ほかに、県外22の市町と災害時相互応援協定を締結しています。どちらか一方が被災した場合、応援要請に対して食料や物資の供給、職員の派遣などを行います。今後でもできる限り多くの自治体と協定を結んでいきたいです。災害が起きたとき、このネットワークが総社市民の支えになると思っています。



総社市議会議長

# 剣持 堅吾

昭和21年4月29日生まれ（73歳）。1995年から旧山手村議を3期務め、総社市議では5期目。昨年10月に開かれた臨時市議会において、2回目の議長に就任した。

## 大規模事業と市民に優しい施策

**議長** 昨年は総社小学校といじりの認定こども園、地食べ学校給食センターえがおの3つの建設が完了しましたね。

**市長** これからは、JR桃太郎線のLRT化や新市庁舎・美術博物館の建設に取り組んでいきます。議会とよく相談して進めたいと思います。

## 新市庁舎建設について

**議長** 新市庁舎建設に関しては、議会に特別委員会を立ち上げたので、十分に議論を行っていきま

**市長** 大規模事業を行ううけでなく、市民生活に直結する部分も見直さなくてはいいけません。市内には多くの声なき声があり、助けを求めている人がたくさんいます。特にひきこもりやLGBT（性的少数者）、外国人などに対しては国の支援



昨年8月に完成した地食べ学校給食センターえがお

**議長** 市長と立ち位置こそ違えど、弱者の声に耳を傾けたいという思いは私も同じです。議員一人の力では難しいことも、議会全体で吸い上げていきたいと思えます。

**議長** 市長と立ち位置こそ違えど、弱者の声に耳を傾けたいという思いは私も同じです。議員一人の力では難しいことも、議会全体で吸い上げていきたいと思えます。

## 人口減少地区における将来ビジョン

**議長** 市の人口は過去最高

**議長** 市としては、どう取り組んでいきますか。

**市長** 減った先に、どういう政策を打ち込んでいくのか考えなければいけません。市道や空き家の管理、耕作放棄地などの難題に直面する人口減少地域に対して、優しさを込めた将来ビジョンを描き、現実に沿った政策を行っていきます。

**議長** 市としては、どう取り組んでいきますか。

**市長** これまでは、人口が減っていく地域に人を増やすための対策をしてきました。しかし近い将来、人口が減り草刈りをする人がいなくなるとか、高齢で買い物に行けない人が増える地域が出てくるでしょう。

**議長** 市としては、どう取り組んでいきますか。

**市長** 減った先に、どういう政策を打ち込んでいくのか考えなければいけません。市道や空き家の管理、耕作放棄地などの難題に直面する人口減少地域に対して、優しさを込めた将来ビジョンを描き、現実に沿った政策を行っていきます。



Kengo Kenmotsu

チーム議会で施策の議論を市と重ねて、これまで以上に市政を前へ進めていきたい。